

手指巧緻性向上を目指した製作を行いました

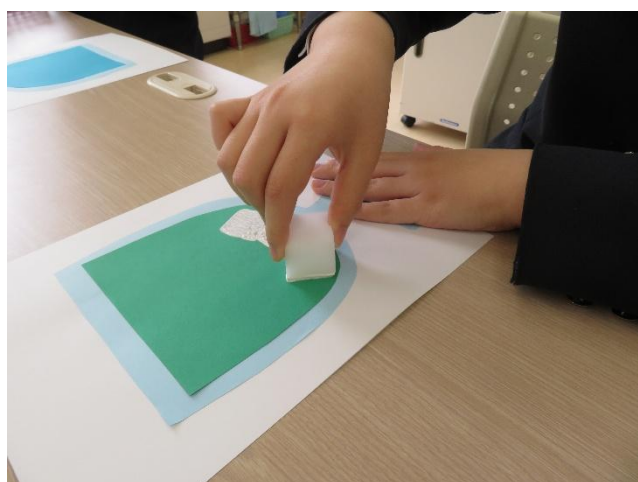
2025. 5. 26

5月26日（月）こころとからだの理解の授業で加齢による身体機能の変化について学びました。6月から始まる施設実習では、実習担当者からレクリエーションを企画することを期待されています。生徒たちは加齢による指先の動作低下に配慮したレクリエーション内容はどのようなものが良いか具体的に考えるために、手指巧緻性向上を目指した製作を体験しました。



- 手袋をはめることにより手の触覚、圧覚、温覚などの低下を再現し、細かい作業がしにくい、物が掴みにくい、掴んだものを落としやすいなどの状態を体験します。

「15mmのシールは外せるけれど、6mmのシールは外せなくてイライラしちゃうし、やる気をなくしちゃう」と実際に体験してみないと気づけない感想が聞こえてきました。



- スポンジに白い絵の具をつけてスタンプをすることで氷を表現しました。生徒たちからは「細かい作業が苦手な方でもスタンプを押すだけなら楽しめるかもしれない」「アイスのをのりで貼る時はスティックのりだと力が必要だけれど、液体のりなら塗りやすいね」とレクリエーションを企画する際の注意点や配慮すべき点などを記録に残していました。

生徒たちはこれから施設実習で出会う利用者の方々をアセスメントし、コミュニケーションをとおして利用者理解繋げていきます。利用者の症状や介護度に合わせたレクリエーションを企画するのが楽しみです。